

【報道関係各位】

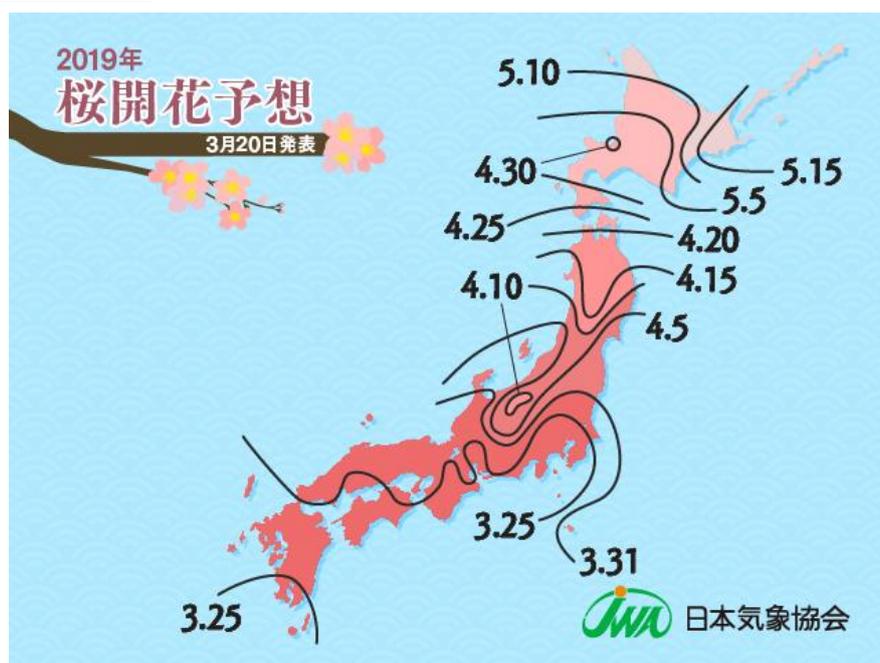
2019年3月20日
一般財団法人 日本気象協会

2019年桜開花予想(第5回) ついに長崎でサクラサク！九州から関東まもなく桜開花ラッシュ！

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、会長:石川 裕己、以下「日本気象協会」)は、日本全国92地点の桜(標本木[ソメイヨシノほか]53地点、自治体・公園など36地点、および日本三大桜3地点)の開花予想日(第5回)を2019年3月20日(水)に発表します。

- ◆18日に愛媛県宇和島、20日に長崎、高知県宿毛で開花！東京もまもなく開花！
- ◆満開のトップは高知と宇和島で28日、東京は29日の予想
- ◆九州から関東では来週後半には見頃を迎えそう

■2019年桜開花予想前線図



■開花と満開の傾向

18日に宇和島で開花しました。20日に長崎、高知県宿毛で開花し、このあと東京で開花する見込みです。21日は、福岡、名古屋などで開花し、桜の開花ラッシュになりそうです。その後も桜前線は順調に進み、4月上旬には平年より1週間から10日ほど早く、新潟や長野、仙台で開花するでしょう。桜前線は4月中旬には東北北部まで北上し、4月下旬に津軽海峡を渡りそうです。札幌で4月30日に開花するでしょう。

この冬は暖冬となり、西日本の一部で休眠打破が遅れたと考えられます。しかし3月下旬から4月にかけて気温は平年並みか高く、桜の開花、満開ともに平年より早いところが多いでしょう。予想開花日は、前回予想(3月14日)よりは西日本で1日から3日遅くなったところがありますが、東北では2日程度早くなりました。予想満開日は今後、春本番の暖かさの日が多いことから前回予想より1日から2日程度早いところが多くなっています。

満開日は開花日の1週間から10日後くらいで、最も早い予想満開日は高知と宇和島の3月28日です。東京は29日、名古屋は31日、大阪は4月4日に満開となるでしょう。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること



■日本気象協会 長期予報(気温)

気温	3月下旬	4月	5月
北日本	平年並	平年並か高い	平年並
東日本	高い	高い	---
西日本	高い	高い	---

■2019年 桜の予想開花日・満開日(主な地点)

	地点	予想開花日	平年開花日	昨年開花日 (2018年)	予想満開日	平年満開日	昨年満開日 (2018年)
福岡県	福岡市	3月21日	3月23日	3月19日	3月30日	4月1日	3月27日
香川県	高松市	3月25日	3月28日	3月24日	4月3日	4月5日	3月29日
広島県	広島市	3月24日	3月27日	3月22日	4月2日	4月4日	3月28日
大阪府	大阪市	3月27日	3月28日	3月20日	4月4日	4月5日	3月26日
愛知県	名古屋市	3月21日	3月26日	3月19日	3月31日	4月3日	3月27日
東京都	千代田区	3月20日	3月26日	3月17日	3月29日	4月3日	3月24日
長野県	長野市	4月6日	4月13日	4月2日	4月11日	4月17日	4月6日
富山県	富山市	3月29日	4月5日	3月27日	4月3日	4月10日	3月30日
新潟県	新潟市	4月2日	4月9日	4月3日	4月7日	4月14日	4月5日
宮城県	仙台市	4月1日	4月11日	3月30日	4月8日	4月16日	4月4日
北海道	札幌市	4月30日	5月3日	4月26日	5月4日	5月7日	4月29日

全 92 地点の桜(標本木[ソメイヨシノほか]53 地点、自治体・公園など 36 地点、日本三大桜 3 地点)の予想開花日・予想満開日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーびー)』桜情報ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

また、開花・満開の最新状況は同ページにて1日2回更新予定です。

■各地の気象予報士コメント

	<p>日本気象協会 九州支社(松井 渉)</p> <p>九州は、長崎で開花し、他の地点でもつぼみがだんだんと膨らみ、桜の開花が近づいています。この先は九州各地から続々と桜の開花の便りが届き、今月末から来月初めには満開を迎えるところが多くなりそうです。桜の季節はもうすぐです。</p>
	<p>日本気象協会 四国支店(川越 絵里子)</p> <p>今年の桜前線は18日に宇和島からスタートを切りました。その他の各地もつぼみは日ごとに膨らみ、ピンク色の部分をのぞかせています。今後は気温の変動はあるものの平年を上回る日が多く、この先一週間ほどの間に各地から桜の便りが届くでしょう。</p>
	<p>日本気象協会 中国支店(筒井 幸雄)</p> <p>桜の花芽は順調にふくらんでおり、少ないながらも花芽の先にはピンク色が見え始めたものもあります。この先は、暖かい日もありますが、寒の戻りも予想されています。このため、開花は前回予想よりも少し遅くなりましたが、平年よりは早い見込みです。</p>
	<p>日本気象協会 関西支社(真田 知世)</p> <p>近畿地方では、先週末から寒さが戻り、花芽の生長は少し足踏みしているようです。この先、今週の金曜日にかけては、暖かくなる見込みです。この暖かさが、花芽の生長を後押しして平年よりも早めの開花になりそうです。</p>
	<p>日本気象協会 中部支社(菅野 彰太)</p> <p>東海地方の桜は、花びらが見えて花の軸が伸びてきたところがあります。東海平野部は、向こう一週間で続々と開花する見込みです。満開は3月末～4月頭の予想ですので、そろそろお花見の計画をしておきましょう。飛騨高山周辺も、4月上旬に開花しそうです。</p>

	<p>日本気象協会 本社(猪股 竜彦) 今週前半まで寒気の流れ込む日があり、気温が平年並みの日が多くなりましたが、22日頃にかけて気温が平年よりかなり高くなるでしょう。東京、横浜でまもなく開花し、この先3月末までに関東の平野部のほぼ全域で開花する見込みです。</p>
	<p>日本気象協会 長野支店(瀨中 弘樹) 今週は九州や関東南部で桜の開花ラッシュになりそうですが、長野の桜は他の地域に比べ少しのんびり屋さん。県内の開花前線の北上開始は来週になる見込み。そして、新しい生活がスタートする頃には、広い範囲で私たちの目を楽しませてくれそうです。</p>
	<p>日本気象協会 北陸支店(瀨山 滋) 先週の北陸地方は、寒の戻りで平地でも雪の降ったところがありましたが、花芽は丸みを帯びて、緑色の部分がだいぶ見えてきました。この先も寒暖を繰り返しますが、気温は平年より高い日が多い予想で、平年より早く、3月末に開花する地点が多いでしょう。</p>
	<p>日本気象協会 新潟支店(今井 梢) 今週は桜の時期を乗り越えて4月下旬の暖かさとなる日もあり、桜のつぼみは一気に膨らんできそうです。この先も気温の高い日が多くなるため、新潟市や高田公園の桜は前回予想と同じで平年より一週間程度早い開花や満開となるでしょう。</p>
	<p>日本気象協会 東北支社(佐藤 理恵子) 今週は暖かな空気が入り、日差しとともに気温もグッと上がるでしょう。この先は一時的に寒気の影響を受ける日もありますが、気温は平年より高い日が多い予想です。桜の花芽の生長は順調で、桜前線は3月末から4月中旬にかけて東北地方を北上するでしょう。</p>
	<p>日本気象協会 北海道支社(田嶋 恵) 暖かい日があったかと思えば雪の降る日があったりと、季節が行ったり来たりしている北海道です。この先も寒暖を繰り返しながらも着実に気温は上がり、4月は平年並みの気温となりそうです。桜の開花は道央、道南で平年より3日ほど早く、道東、道北は平年並みの見込みです。</p>

日本全国92地点の桜(ソメイヨシノほか)の開花・満開予想以外にも、「日本三大桜」と呼ばれている福島県の「三春滝桜」(みはるたきざくら:ベニシダレザクラ)、山梨県の「山高神代桜」(やまたかじんだいさくら:エドヒガンザクラ)、岐阜県の「根尾谷 淡墨桜」(ねおだに うすずみざくら:エドヒガンザクラ)の開花予想を『tenki.jp(てんきじゃーびー)』桜情報ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1981~2010年の平均値

かなり早い	:平年より7日以上早い
早い	:平年より3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年より3日から6日遅い
かなり遅い	:平年より7日以上遅い



宇和島市の標本木
※宇和島市ご提供 (3月18日撮影)



福岡管区気象台の標本木
(3月20日撮影)



靖国神社内の東京の標本木
(3月20日撮影)



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1:桜開花予想の報道発表のスケジュールは？

A1:第1回は2月7日(木)、第2回は2月21日(木)、第3回以降は3月から4月下旬まで毎週木曜日(3月20日のみ水曜日)に発表を予定しています。2月中は予想開花日のみを発表し、3月以降は予想開花日と予想満開日を発表します。

Q2:開花日・満開日の基準は？

A2:気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5~6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3:予想する地点数は？

A3:2月中は51地点、3月以降は全国で92地点の予想を発表します。予想地点92地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる36地点、および日本三大桜の3地点となります。

Q4:日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4:花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で13年目の取り組みです。

Q5:開花予想に使うデータは？

A5:以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。

Q6:日本三大桜とは？

A6:福島県三春町の「三春滝桜」(ベニシダレザクラ)、山梨県北杜市の「山高神代桜」(エドヒガンザクラ)、岐阜県本巣市の「根尾谷 淡墨桜」(エドヒガンザクラ)を指します。いずれの桜も、大正11年(1922年)に国の天然記念物に指定されています。樹齢が1000年以上で、幹回りが9メートル以上あります。

日本三大桜の開花予想作成にあたり、地元自治体やお寺の住職の方々のご同意を得て、過去の長年にわたる開花日や満開日の観測データを使わせていただき、それぞれの桜の開花日や満開日に関する独自の予測式を作成しました。開花時期には日本気象協会の気象予測を用い、地元自治体やお寺の住職の方々のご協力も得ながら、精度の良い開花予測を提供します。